

占領下の水支配

M.レザ・ベナム（中東研究者）著、脇浜義明訳

Counter Punch, 2024年7月25



Photograph Source: Muhammad Sabah, B'Tselem – CC BY 4.0

私がイスラエルのパレスチナ水資源の濫用と窃盗に関する論文の仕上げにかかった2024年7月19日に、国際司法裁判所（IJC）が歴史的な勧告意見を出した。「東エルサレムを含むパレスチナ占領地に対するイスラエルの政策・慣行から生じる法的効果」と題する80頁の意見書で、「イスラエル国家の継続的な占領地プレゼンスは違法であり」「できるだけ早急に終わらせる」べきであると明確に述べている。特に私の関心を惹いたのは「天然資源の搾取」（V/B.4, 124~133）の部分で、私が論文で書いている内容と一致したからである。IJCは、イスラエルがパレスチナの水資源を不法に支配し、濫用し、奪い取ることによって、パレスチナ全土を永久支配していると、指摘している。被占領西岸地区（特にヨルダン渓谷があるC地区）の天然資源を自国民のために独占的に利用し、そこに居住するパレスチナ人とその社会を資源利用から排除している。C地区は西岸地区の61%を占め、全面的にイスラエルが統治している。さらに、IJCは、パレスチナ人の生活全域の支配、とりわけ水資源の排他的支配を止めよと、イスラエルに勧告している。

水に関する考え方は中東の文化、政治、宗教、神話などに深く染み込んでいる。例えば、酷暑の夏には家の玄関前や地区の入り口に水を入れた壺を置いて喉の乾いた人が自由に飲めるようにするのは、中東の伝統的風習である。

イスラム教では水は貴重な宝である。水は新宗教の誕生¹とそれに関する物語や儀式で中核的な役割を果たしている。大干ばつが古代アラビアで社会変革を引き起こしたであろう。そういう社会変革の中から、7世紀の初めにイスラム教が生まれたのである。

イスラム神話の中でも水が大きな役割を果たしている。ムスリムの伝承では、若き預言者イシュメール（アブラハムとハガルの息子²）が砂漠の中で死なずにすんだのは、アラビア半島のザムザムの泉のおかげだという。この泉はメッカのカアバ聖殿を包囲するようにあるマスジド・アル・ハラムの中にあり、4000年経っても奇跡的に水を湧き出している。この水は預言者ムハンマドの霊廟が預言者のモスク（メディナのマシド・アル・ナバウィ）にも供給されている。

ガザのムスリムは、世界中のムスリムと同じように、上述の2つの神聖なモスクの方向に向かって、一日に5回お祈りを捧げる。しかし、去年10月以降のイスラエルの絶え間ない猛攻撃のために、禊の水で体を清める沐浴も出来なくなった。

パレスチナ人が耐え忍んでいる大きな苦しみを理解するためには、彼らが次々と大切なものを失ってきた過去の歴史を忘れてはいけない。

20世紀初めから始まったヨーロッパのシオニストのパレスチナ入植のために、先住民の生活が大きく変わった。イスラエル建国の父たちは、彼らのユダヤ人国建設のための入植計画には、地下水を含むパレスチナの地の水に対するヘゲモニーを確立することが必要であることを、十分に意識していた。1919年、第一次世界大戦を終結させたヴェルサイユ宮殿での講和会議で、シオニスト指導者たちは、未来のユダヤ国はナカブ（ネゲブ）砂漠、シリアのゴラン高原、ヨルダン溪谷、レバノンのリタニ川、西岸地区の支配にかかっていると断言した。シリアとレバノンの国境上に伸びているヘルモン山の山腹と盆地がシオニストのユダヤ人建設野心にとって非常に重要と見られた。そこにある水路や川がヨルダン川の源流となるからである。

1919年12月、後にイスラエル初代大統領となった（1949～1952）ロシア生まれのハイム・ワイズマンは、「未来のユダヤ人国の経済は農業や水力発電に必要なパレスチナの地の水資源の利用にかかっている。その水は主としてヨルダン川の源流であるヘルモン山とリタニ川から得られる」と書いた文書を、当時の英首相ロイド・ジョージに送った。リタニ川はレバノンの貴重な水源である。

第一次中東戦争と呼ばれる1948年の戦争で歴史的パレスチナの78%を奪ったイスラエルは、事前に練っておいたパレスチナ水資源支配計画の実行に直ちに着手した。1949年に水資源の国有化とパレスチナ人への制限が実行された。

1967年のアラブ諸国対イスラエルの戦争も水が原因である。1953年イスラエルはヨルダン川上流の水をイスラエルの中心部と乾燥地南部に計画している入植地へ移送する国営導水路（NWC）の建設を始めた。1963年にそのNWCにガリラヤ湖（ティベリアス湖）の水をポンプで汲み上げて流し始めたが、これはシリアとレバノンとヨルダンの水資源にとって大きな脅威であった。そのためイスラエルとアラブ諸国の間で何度も衝突が起き、「水戦争」と呼ばれる紛争が続いた（1964～1

¹ イスラムのこと。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教は同一の神を信仰する兄弟宗教で、イスラムが一番新しく、ユダヤ教徒、キリスト教と「同じ経典の民」と呼んでいる。

² ユダヤ教の聖書（旧約聖書）によれば、イスラエル人の祖とされるアブラハムが妻サラが所有していたエジプト人女奴隷ハガルを妾にして産ませた子。その後サラが身ごもって出産、ハガルとイシュメールは砂漠へ追放された。ユダヤ教はイシュメールをよこしまな人物と見、キリスト教の新約聖書はイシュメールを無視、しかし、イスラム教は彼を預言者、犠牲の子として大切に扱っている。

967)。1965年、イスラエルの不法な計画を阻止するために、シリアとレバノンにはヨルダン川の源流（バニマス川とハスバニ川）の水を自国内に流し込むというアラブ連盟の計画を実行した。

イスラエル軍将軍で元首相（2001～2006）のアリエル・シャロンは、1967年の戦争は、シリアがヨルダン川源流の経路を変更する計画を潰すために仕掛けた電撃戦争であるこいを回顧録で書いている。イスラエルがシリア内部の建設現場を攻撃して破壊し、戦争となった。

イスラエルの国営導水路は1964年に建設が完了し、ヨルダン川の水の75%をイスラエルへ迂回させ、パレスチナ人はそれを一滴も利用することを禁じられた。

6日戦争と呼ばれた1967年戦争の電撃的勝利によって、ヘルモン山盆地の多く、西岸地区とガザ回廊のすべてがイスラエルの支配下に置かれた。イスラエルは支配地域の水源をイスラエル国の財産と宣言し、嚴重な軍の管理下に置いた。さらに、1981年にシリア領のゴラン高原を不法にイスラエル領として併合して、初期シオニストが夢見たヨルダン川源流の直接支配を実現した。イスラエルはまた南レバノンの水資源ーリタニ川とシェバー・ファームズ³を欲しがり、ずっとそれをイスラエル領にする姿勢である。シェバー・ファームズはヘルモン山から流れてくる地下水が豊富にある。場所である。1950年代、当時のイスラエル国防軍参謀総長のモシェ・ダヤン等が南レバノンからリタニ川までをイスラエル領として併合することを主張したことを示す歴史記録が残っている。

それ故、イスラエルは1978年にレバノンへ侵攻し（リタニ作戦）、さらに1982年にも侵攻した。イスラエル軍は南レバノンの占領を続けていたが、2000年にヒズボラによって追い出された。

イスラエルはシェバー・ファームズをゴラン高原の一部だと主張して、ゴラン高原と同じように、1981年に併合した。ヒズボラはヘルモン山脈の西側山腹16平方マイルのシェバー・ファームズを取り返す戦いを続けている。

占領地西岸地区

イスラエルの目的はパレスチナ人への水をどんどん減らして、彼らがついにあきらめて土地を去るまで追い詰めることである。イスラエル政府のアパルトヘイト的な水政策は1990年代の暫定的オスロ和平合意で始動した。オスロ合意ではイスラエルが西岸地区の天然資源の80%以上を管理することとされた。オスロII合意では、水資源の配分は「最終的地位協定交渉」で協議するとされた。パレスチナ国家樹立も最終的地位協定交渉で協議するとなっていたが、そんな交渉はまったく行われず、イスラエルは着々とパレスチナの土地と水資源を不法に奪っていった。1995年のオスロ合意は5年間の暫定合意で、5年後に最終的地位協定交渉が行われる決定であったが、暫定合意がそのまま定着した。その結果、イスラエルは好きなように水を使い、一方パレスチナ人は「和平合意」とされたオスロ合意で決められた限定的な水分配で我慢するしかない。限定的な水分配は人口増加、気候変動、日常的な水使用の必要性をまったく反映していない。

本来占領当局としてのイスラエルは、国際人権法によって、被占領民の安全で十分な水へのアクセス権利を保証しなければならない。しかし、イスラエルは占領者としての義務を実行することはなかったし、不法な占領をやめることもしなかった。

イスラエル人の水消費量は西岸地区パレスチナ人のその10倍である。イスラエル人と入植者は西岸地区の帯水層の水の87%を消費し、パレスチナ人に割り当てられてるのは残りの僅か13%であ

³レバノン、シリア、イスラエルの国境地帯にある農地で、レバノン、シリアが所有権を主張しているが、1964年戦争で占領し、今も実効支配している。国連はシリアに所有権があるとしている。

る。パレスチナ人は自分の子どもを風呂に入れさせる水にも事欠いているのに、ユダヤ人の子どもはプールでバシャバシャ水浴びしているのだ。

イスラエル国営水道会社メコロットが水道を独占し、パレスチナ人も日常の水需要をメコロットに依存しなければならない。メコロットは西岸地区の水の湧き出るところから水を引き入れ、各所に井戸を掘って、徹底的に取水して、イスラエル人と不法占拠者である入植者に多量の水を絶え間なく供給するが、パレスチナ人への水配給は散発的である。メコロット社はいつも決まってパレスチナ人への水供給を少なくし、恥知らずなことに7高い価格で売りつけている。パレスチナ人は自分のものを高い値段で買わなければならないのだ。パレスチナ人は慢性的な水不足に対処するため、屋根の上にタンクを据えて、雨水を貯めている。

国連人道問題調整事務所（OCHA）によれば、2021年以降イスラエル占領当局は西岸地区と東エルサレムでほぼ160か所の貯水地、下水道網、井戸を破壊した。イスラエルはどんどん井戸を掘っているが、パレスチナ人の井戸掘りを禁止し、雨水からの取水を妨害している⁴。

ユダヤ人入植地の拡大やイスラエルの軍産複合体地帯の拡大で西岸地区の水汚染が拡大し、パレスチナ人の農業に著しい影響を与えている。パレスチナの農業は水不足で萎んでいくのに対し、イスラエルの農業はふんだんに水を供給され、トマトやオレンジや綿花のような大量の水を必要とする作物を生産している。

ガザ回廊

ガザの壊滅的な水危機は2023年10月戦争以前から続いている。イスラエルによる16年間にわたる封鎖で水危機が加速された。何度も繰り返されるイスラエルの襲撃で飲料水が入手困難であった。

ガザには地表に水資源がないので、崩壊寸前となっている沿岸沿いの帯水層がガザ回廊の水供給の81%を供給していた。残る19%は海水淡水化プラント3基とメコロットの配水管3本である。2023年10月9日、イスラエルはメコロット社からの送水を止めた。

2005年のシャロンによるガザ撤退以降、人口が密集する小さなガザ回廊に5回も大きな戦争を仕掛けて、ガザのインフラの多くを破壊した。イスラエルは水関連のインフラを再建するのに必要なセメントや鉄骨などのガザ搬入を制限していたので、ガザの人々は枯渇寸前の、汚染された、塩分の多い水で生活せざるを得なかった。

現在国連は、5つの下水処理施設全部、脱塩施設、下水のポンプ場、井戸、貯水池など、ガザの水関係施設と公衆衛生施設の70%がイスラエルによって破壊されていると見ている。残る30%は燃料不足のために稼働していない。大量の未処理の下水が地表に溢れ、地中海に流れ込んでいる。さらに国連は、ガザの地下水の95~97%が飲料に適していないと言っている。ほとんどの人はソーラーパネル発電で小規模な脱塩所を運営する商人から飲料水を買っている。

ユーロ地中海人権モニターによれば、飲用や洗濯、洗面など日常衛生にガザのパレスチナ人が使う水の量は一人一日1・5リットルである。国際的に緊急時に必要と定められている一日の一人当たりの水は15リットルであることと比較すれば、いかに酷い状態かが分かるであろう。

華氏90度という酷暑の中で、ゴミ処理や下水処理が出来ていない、衛生的な水供給がないと状態では、A型肝炎、コレラ、腸チフス、下痢、皮膚病などの健康問題が発生し、ガザ全体が悪臭に包まれるなど、健康に悲惨な結果をもたらした。イスラエルの虐殺攻撃を逃れた避難民は人で密集したテントで生活しているが、ハエ、ゴキブリ、サソリ、ネズミに悩まされ、夜安眠できない。

⁴ 占領軍は屋根の上のタンクを破壊する。

結語

10か月間にわたる連日の砲撃と空爆がガザの環境と人々のエコシステムを破壊した。冒頭で触れた ICJ の勧告意見は、イスラエルのパレスチナ占領と支配は違法で、すぐにやめなければならない、入植地拡大・建設も違法で、すぐにやめ、入植者をすべて引き揚げるべきだ。また、これまでの加害行為に関してパレスチナ人に補償しなければならない、世界の各国はイスラエルの占領・支配を援助してはならない、とはっきり言明した。

ほとんどの国連加盟国は、国際法上の義務を果たしている。しかし、イスラエルと米国がそれに従うとは考えられない。両国は国連決議を無視してきた歴史があり、例えば2004年に、西岸地区のパレスチナ人の村や町を分離するイスラエルの分離壁をすぐに撤去せよとという ICJ 判決は無視された。

ほぼ半世紀間にわたって、イスラエルは、米国と傭兵のような企業メディアの支援を受けて、パレスチナの天然資源の窃盗で経済的に成長し豊かになった。

ことわざにもあるように、それはコップ一杯の水を飲むように簡単なことかもしれない。しかし、パレスチナの場合はそうはいかない。今のところパレスチナ人は生まれてから死ぬまで牢獄に閉じ込められた状態である。しかし、パレスチナ人の悲劇的なナクバ（破局）に最終章の兆しが見え始めている。